

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

( 網掛け部分は外部評価の調査項目 )

( 別紙 3 )

番号	項 目	取り組みの事実 ( 実施している内容・実施していない内容 )	印 ( 取り組んでいきたい項目 )	取り組んでいきたい内容 ( すでに取り組んでいることも含む )
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを目指して「住み慣れた地域との寄りそい、人と人との心のよりそいを大切に、生きがいとやすらぎのある生活を支援します。」を柱に運営理念を作り、実践している。		5月から管理者の交代と新スタッフの異動に伴い、新しい運営理念をスタッフで話し合っ て作った。今後も新しい理念のもとでより一 層の意思の統一を図っていけるよう啓発して いく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長はミーティング時、職員に理念を理解できるように説明し、実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時、利用者や家族に説明している。地域の方の来訪やボランティアの方たちと会話の中からホームや認知症について話し、理解してもらうように工夫している。		利用者には日頃のコミュニケーションの中で新しい理念を説明。家族には運営推進会議を利用して、新しい理念とその重要性を説明した。
2. 地域との支え合い				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	バス停の前にホームがあるので、地域の方と清掃や、花壇の手入れなどの時、会話が出来、気軽に来訪できる雰囲気が出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の公民館で2ヶ月に1度開かれている「いきいきサロン」に参加させてもらっている。		町内会加入を検討し、ホーム行事(夏祭り、クリスマス会等)に案内し、理解と協力を呼びかけていきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方の介護に関する相談も受けており、気軽に立ち寄ってもらったり、職員が訪問して、相談事業に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、職員全員がそれぞれの立場で行いそれをベースに改善策を話し合い実行している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月おきに開催し、問題点や今後の課題について話し合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出かける時は利用者を必ず同行している。苦情等の報告・不明な点の質疑など、密に連絡を行っている。		今後も市と連携を密にし、市職員などの研修場所としての提供や介護講習会講師派遣協力など取り組んでいく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度該当者はいないので家族、利用者に説明していない。		来るべき日に備え、成年後見制度のパンフレットや説明書を用意し、利用者や家族に説明できる体制を作る。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を実施し、職員同士が注意し、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者と家族に十分に説明し、納得してもらい、不安や疑問が起こらないように注意している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望や意見を気楽に言える雰囲気作りや相談箱も設置中の他、また近隣にある同一法人の経営する老健の施設長等にも利用者の顔をつなぎ気軽に話してもらっている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の近況・行事予定は毎月定期的に「ブロッコリー通信」と一緒に報告している。個々の健康状態等は、密に家族へ連絡している。		お預かりしている個人のお金に関しては、各自金銭出納表を作っており、毎月家族に確認、サインをいただいている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見が職員に安心して話せる雰囲気をつくり、運営に反映している。また近隣の同一法人の老健の施設長等にも顔をつなぎ気軽に連絡を入れてもらっている。		特に運営推進会議を通して家族の意見が多く出るようになっており、大きな貢献の場となっている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全員参加によるスタッフミーティングの他、職員の意見を反映し、利用者のためのサービスの質の向上を目指している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に応じて勤務ローテーションを組んでいる。		利用者の状態・希望と職員の希望をうまく組み合わせ、勤務ローテーションを組んでいくように努力する。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の担当を決め、利用者が安心して暮らせるようにしている。この1年間の職員の異動は1名のみである。		5月の管理者の交代、新スタッフの加入の際は利用者には十分に説明を行い、理解をいただく事ができ、大きな動揺はなく新スタッフの事も受け入れられている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は性別、年齢制限はない。職員は利用者とともに暮らし、生き生きと働けるようにしている。介護福祉士・介護支援専門員の資格取得を積極的に後押ししている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市主催の人権教育の研修会に毎年参加し、新人研修でも人権について学んでいる。		市主催の人権啓発事業に積極的に参加し、地域における啓発活動を実践していきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を定期的に受講し、職員全員で共有するための勉強会を実施している。		職員のレベルアップに繋がる内外研修を積極的に取り入れていく。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人本部と合同会議を開催し、情報交換や技術向上のための意見交換会をしている。新たに開設した近隣の小規模多機能施設の職員実習を受け入れ、また運営推進会議に出席してもらい、今後の交流の形作りを整えている。		グループホーム協議会に参加し、介護サービスの質の向上を目指していく。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム長に相談したり、職員同士で談笑してストレスの軽減に努めている。また近隣の同一法人の老健職員とも様々な交流に努めている。		出来るだけ職員がストレスが溜まらない職場環境にしていく。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりが目標を持って、努力している。		職員ひとりひとりに年間計画を書いてもらう。
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者や家族から過去の履歴を十分に聞き取り、信頼関係ができるように努力している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望を把握し、努力をすることで、信頼関係を築いている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応が間違わないように、慎重に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> <p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>	<p>入居前には本人と家族に何度か見学に来ていただき、ホーム側も面会に行くなどして、少しでも馴染んだ形で入居していただけるよう努力している。</p>		
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は家族の一員としてホームで仲良く暮らし、職員は利用者から心配されたり、励まされたりして、一緒に生活している。常に利用者により日常的な役割を作りだす事を考えている。</p>		
30	<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>一方的な報告をするだけにとどまらず、ケアの方法など、家族に問いかけるようにする事を心掛けている。</p>		
31	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居後の利用者と家族がいつまでもよい関係でいられるようにしている。</p>		
32	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者が大切にしている人、物、場所を把握し、外出支援や電話や手紙での連絡の仲介を行っている。</p>		
33	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士がホームの中で、仲良く暮らせるよう職員が仲介となり、レクリエーション等で関わり合いの機会を持っていただけるよう努めている。</p>		
34	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院や他施設への入所後も、しばしば訪問し、退居後も相談を受けている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
	1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者の思いを十分聞いて、情報を共有し、個別ケアの確立に日々努めている。</p>		
36	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>職員は利用者とは会話することで過去の履歴を少しづつ把握し、ホームの暮らしに活かしていく工夫をしている。</p>		
37	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々変化する利用者の状態を把握し、介助している。</p>		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は家族と職員全員で要望や意見を反映して作成している。		全スタッフに介護計画作成のノウハウを学ばせ、チームケアのレベルアップを図っていきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が生じた時は随時介護計画の見直しをしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、職員全員で情報を共有している。		
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を把握し、サービスを提供している。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域包括支援センター、民生委員 ボランティア、消防署などに協力してもらっている。		ボランティア参加をより一層呼びかけていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要であれば地域の他のサービス事業者等と連携し、他のサービスが利用しやすい支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に運営推進会議のメンバーとして参加してもらい、認知症対応型共同生活介護の啓発に取り組んでいる。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と提携病院が近くにあり、利用者の状態に合わせて受診している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	基本的には提携病院の医師に相談しており、本人の状態と家族の意向により専門医へかかっている利用者もおられる。		専門医へお連れした際を利用して積極的に相談を行いたい。また、専門医が講師として出席される研修等もチェックして参加していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の指導で、職員全員が応急処置や健康維持に関する訓練をしている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と一緒に入院先の病院に出向き、早期退院に向けた話し合いをしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	鴨生の里における重度化した場合の指針を作成、家族にも説明しているが、現在の所該当するケースには至っていない。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在のところ終末期の利用者はいないが、来るべき時に備えて、職員全員と話し合いをしている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者や家族の希望に添えるように転居先へ情報提供している。		
	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
	1. その人らしい暮らしの支援			
	(1) 一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを守るために職員全員が守秘義務を守っている。個人記録等は目につきにくい場所に保管するようにしている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いや希望を聞きだす努力をしている。また、職員間で情報を共有し、声掛けの工夫などを日々模索している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者が希望する自由な過ごし方をしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容のさりげない支援と行きつけの理・美容院への送迎など支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と食事の準備、配膳、下膳、洗物などを楽しみ、食事をしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は本人の希望を取り入れて支援している。飲酒・喫煙をされる方は現在はおられない。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄記録を毎日とり、職員全員で把握・対応している。プライバシーの配慮を心がけ、快適な排泄の支援を行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日を決めて実施している。		利用者が希望する時間帯に入浴できるように工夫していく。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間は外出したり、歌を歌ったり、体操などで過ごし、夜ぐっすり眠れるようにしている。眠れない方は職員と話したりして眠れるまで相手している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力・希望に合わせて役割分担し、楽しみながら過ごしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	百均ショップや周辺の店に買い物に行き、利用者にお金を払ってもらって、お金の大切さ、社会との関わりを持つ機会を作っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と外出したり、庭に出て歌を歌ったり、畑や花壇の手入れをしてもらったり、天気の良い日は外で過ごすことが多い。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行楽地へ出かけたり、毎月計画を立て、外出の支援をしている。		利用者の要介護度の増加に伴い、以前は行えていた全員での外出は難しくなっている。個々の状態・希望に合わせた外出支援を一層取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の近況報告を家族の来訪時や手紙、電話でしている。本人の希望があれば電話をしてもらっている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ホームは開放しているので、気楽にどなたでも訪問できる。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。職員には周知徹底を実施している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。門扉のドアも開けている。利用者は自由に出入りできている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の行動パターンを把握し、安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物は鍵のかかる所や手の届かないところに保管している。服薬時は飲み込みの確認・刃物使用時の見守りは徹底している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策に職員が取り組み、定期的に防災訓練を行っている。		運営推進会議へ警察や消防署の方に参加を依頼し、地域ぐるみでの事故・防災対策に取り組んでいきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルがある。職員は利用者の急変や事故に対する対処を日頃から話し合っている。		急変や事故発生時に迅速に対応できるよう、職員間で想定訓練を行っていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を職員主導で実施している。		消防署の指導で夜間を想定した避難訓練を実施していきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故や急変に対する対応について家族と相談し、連絡体制などを強化している。		運営推進会議を通して緊急マニュアルを説明し、緊急時の家族の協力を呼びかけている。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護スタッフだけの判断が困難な時はかかりつけの医療機関や非常勤の看護師に連絡をとり、指示を仰ぐ体制作りを整えている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の処方箋を職員が理解し、服薬の支援をしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防は体操をしたり、水分摂取量をチェックして、一人ひとりの排泄パターンの把握と記録に努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・就寝前の口腔ケアをしている。義歯は夜間洗浄し、保管している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	料理は老健の管理栄養士とも相談しながら一人ひとりの状態に合わせ工夫しており、職員が摂取量を記録している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに応じた予防・対応をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、食堂は衛生管理し、食材は新鮮な物を使用している。調理具等は定期的に消毒している。		
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	正門前と玄関前に花壇を作っており、出入りのしやすい環境作りに取り組んでいる。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音は利用者が快適に過ごせるように配慮している。終日オルゴール音楽や利用者世代が親しんできた歌を流している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールは吹き抜けで、大きな扇風機がゆっくりと回り、木製のベンチは評判が良い。和室・ソファ空間が憩いの場となっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼット、車椅子対応のトイレがあり、利用者の使い慣れた物や仏壇など自由に持ち込んでいる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な窓を開閉し、換気扇とエアコンを使用しているため、臭いや空気のおよみがない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に滑り止め、手すりを配置し、利用者の安全に配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を職員が把握し、支援している。掲示物の表示は高さや色、活字の大きさなどを工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に一休み出来るベンチがあり、ホームのフェンスの外に畑を作り秋の収穫期は利用者も参加している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いきいきサロンへの参加や、運営推進会議の開催などを通して、着実に地域との関係作りの基盤ができつつあり、また家族自らボランティアやレクレーション活動への参加を希望して下さる声上がるなどの、面会以外での家族との交流も深めることが出来ています。今年からの医療連携加算の取得に伴い、非常勤で看護師が配置された事で、現場での指導や毎月のスタッフミーティングを通して、医療面での知識の向上を日々図っています。